

追悼の辞

大千軒の連峰から津軽の山々へ続く海峡の風景は少しずつ夏の青さを増し、今年もまた変わりなく皆様の記憶に残るふるさと福島を映し出しております。

浜は、真昆布の収穫、ウニ漁でにぎわい。

乳白色の栗の花が咲き、田んぼの苗も、日に日にその緑を増してきました。

熊出没が続ки、尊い町民の犠牲に、恐怖と悲しみの連鎖がとどまりませんが、山鳥の鳴き声が響き、ツバメが飛び交い、カエルも賑やかに鳴きだし、故郷・福島も暑い夏がはじまりました。

戦後八十年を越え、今なお、遺骨を収集し、遺族を捜す努力が続けられております。海外戦没者二百四十万人、約百十五万柱の遺骨は、未だに家族の元へ帰ることなく不明であり、無念の思いを抱いて亡くなられた方々への遺族の心の痛みを消し去る事は出来ません。

六月二十三日、沖縄戦最後の激戦地となった糸満市摩

文仁の丘で沖縄全戦没者追悼式が行われました。

広島・長崎の「原爆の日」や「終戦の日」とともに「慰霊の日」として記憶し続けなければなりません。

沖縄戦の全貌を描いた映画「激動の昭和史・沖縄決戦」をテレビで見ることが出来ました。戦況が悪化し沖縄を本土防衛の第一線とみなし、沖縄は本土のためにあるという国の考え方で無謀な戦いを続けざるを得ず、助けてもらうことも知らず多くの民間人も巻き込まれ悲惨な結末になだれ込んでいく凄惨な映像が続き、身につまされ戦慄を覚える思いをいたしました。

戦争に直接参戦した兵士のみならず、戦禍を避けるすべもなかった多くの人々の尊い生命を奪い、残された多くの人の心をも深く傷つけた戦争の悲惨な事実、忘れてはならず、けっして繰り返してはならず、脳裏に強く記憶し、後世に伝え続けなければなりません。が、悲惨・冷酷な事実を忘却し、専守防衛を踏み越え、軍備増強を推し進めようとする傾向も懸念されます。

「核なき世界」の実現を改めて呼びかけ、核廃絶に向

けた具体的な「行動計画」を採択した核兵器禁止条約
批准国も七十三ヶ国となりましたが、残念ながら、日
本は、依然として条約批准を拒絶し続けております。

大戦の苦い経験を経て、唯一の原爆被爆国である事を
意識し、平和を希求する日本国民の固い決意を込め、
憲法の基本姿勢として、『戦争の放棄』を規定した日本
の言動が、重要な意味を持つ状況は続きます。

私どもは、ここに、平和を願い、ひたすら家族の幸せ
を願いつつ散華され、故郷福島を見守る皆様にあらた
めて思いを馳せ、恒久平和の実現に努力を傾ける事を
お誓いいたします。

御霊の平安をお祈りし、ご遺族の皆様のご多幸を心か
らご祈念し、哀悼の真を捧げ、追悼の辞といたします。

令和七年七月十七日

福島町議会

議長 溝部 幸基